

この2年あまり、新型コロナウイルスとの戦いは戦争にたとえられてきました。そして今まさに、ロシアがれっきとした主権国家であるウクライナに侵攻するという信じられない出来事が起こってしまいました。第3次世界大戦というぶっそうな言葉が飛び交う世の中を予想もできませんでした。人類は歴史に学ぶということができないのでしょうか。まさに歴史は繰り返しています。しかも、科学技術の進歩で、殺傷能力の高い武器が使用され多くの命が一瞬の内に消えていくという悲惨な出来事がこの地球で起こっています。何もできないことに無力感を感じるとともに、決して対岸の火事とは言えないことに恐怖を感じます。第3次世界大戦が起これば、日本も当然巻き込まれていきます。力と力の対決は、どんどんエスカレートしていくしかありません。行きつく先は人類の滅亡です。そうなる前に、世界中が戦争を放棄することこそ人類が生き延びていくための唯一の道だと思えます。今こそ日本国憲法第9条の精神を世界に訴える時ではないでしょうか。

【最近目立つ病気】

季節の変わり目、特に春はアレルギー疾患が目立ちます。くしゃみ、鼻汁、鼻閉、目のかゆみ、のどのかゆみ、皮膚のかゆみといった症状が多く見られます。子どもから大人まで、まさに国民病と言っても過言ではありません。症状が本格化する前に、できれば症状が出る前に抗アレルギー剤を服用することで症状は軽減します。点眼薬や点鼻薬も有効です。マスクやワセリンなどで鼻や口を保護することも有効です。

【オミクロン株】

さて、猛威を振るっているオミクロン株についての最新の知見を以下に記します。(NIID 国立感染症研究所ホームページより、一部省略あり)

【感染性・伝播性】

オミクロン株はデルタ株に比べ、世代時間が約2日(デルタ株は約5日)に短縮、倍加時間と潜伏期間も短縮し、感染後の再感染リスクや二次感染リスクが高く、感染拡大の速度も非常に速いことが確認されている。なお、報告されているデータによれば、これまでの株と同様に発症前の伝播は一定程度起きていると考えられる。

【感染の場・感染経路】

国内では、多くの感染がこれまでと同様の機会(換気が不十分な屋内や飲食の機会等)で起きており、感染経路もこれまでと同様、飛沫が粘膜に付着することやエアロゾルの吸入、接触感染等を介していると考えられている。

【重症度】

オミクロン株による感染はデルタ株に比べて相対的に入院のリスク、重症化のリスクが低いことが示されているが、現時点で分析されたオミクロン株による感染の致命率も、季節性インフルエンザの致命率よりも高いと考えられる。また、肺炎の発症率についても限られたデータではあるが季節性インフルエンザよりも高いことが示唆されている。今回の感染拡大における死亡者は、昨年夏の感染拡大と比べ、80歳以上の占める割合が高くなっている。感染前の状況として、医療機関に入院中の方や高齢者施設に入所中の方が多いことが示された。侵襲性の高い治療を希望されない場合や基礎疾患の悪化等の影響で重症の定義を満たさずに死

亡する方など、新型コロナウイルス感染症が直接の死因でない事例も少なくないことが報告されており、基礎疾患を有する陽性者でコロナ感染による肺炎が見られなくても感染により基礎疾患が増悪することや、高齢の感染者が心不全や誤嚥性肺炎等を発症することにより、入院を要する感染者の増加に繋がることにも注意が必要。

【ウイルスの排出期間】

オミクロン株感染症例におけるウイルスの排出は、時間の経過とともに減少する。有症状者では、発症日から10日目以降において、排出する可能性が低くなることが示された。なお、無症状者では、診断日から8日目以降において排出していないことが示された。



【ワクチン効果】

初回免疫によるオミクロン株感染に対する発症予防効果は著しく低下する。入院予防効果については、半年間は一定程度保たれているものの、その後50%以下に低下することが報告されている。一方で、3回目接種によりオミクロン株感染に対する感染予防効果、発症予防効果や入院予防効果が回復することや、3回目接種後のワクチン効果の減衰についても海外から報告されている。海外では一部の国で4回目接種が始まっている。

【BA.2系統】

海外の一部地域ではBA.2系統による感染が拡大している。国内におけるオミクロン株は、当初BA.1とBA.1.1の海外からの流入がともにあつたものの、その後BA.1.1が多数を占めるに至り、現在も主流となっているが、BA.2系統も検査や国内で検出されており、現在、BA.2系統への置き換わりが進んでいる。このため、今後、感染者数の増加(減少)速度に影響を与える可能性がある。なお、BA.2系統はBA.1系統との比較において、感染性がより高いことが示されている。BA.1系統とBA.2系統との重症度の比較については、動物実験でBA.2系統の方が病原性が高い可能性を示唆するデータもあるが、実際の入院リスク及び

重症化リスクに関する差は見られないとも報告されている。また、英国の報告では、ワクチンの予防効果にも差がないことが示されている。英国の報告では、BA.1系統ウイルス感染後におけるBA.2系統ウイルスに再感染した事例は少数あり、主にワクチン未接種者であると報告されている。

【XE系統】

オミクロン株のXE系統は、オミクロン株のBA.1系統とBA.2系統の組換え体であり、3月末に公表されたWHOのレポートによると、1月に英国で初めて確認されて以降、これまでに600例以上確認されている。同レポートでは、BA.2系統に比べて市中での感染者の増加する速度が10%程度高いと報告されている。XE系統について、検査において3月26日に採取された検体から1件確認された。国立感染症研究所によれば、感染力や重症度等に大きな差が見られるとの報告は現時点ではない。

おしらせ



☆西念の駅西福祉健康センター内の金沢広域急病センター(TEL:222-0099)では午後7時30分から11時まで、小児科と内科の診療を年中無休で行っています。加畑の担当は5/19・7/18の予定です。なお5/1は当番医です。

☆金沢市では乳幼児の任意接種のワクチンについての助成金制度を行っています。詳細は受付でお尋ね下さい。

☆当院のHp(<https://kabata-cl.jp>)から順番待ちシステムにアクセスできます。ネットで順番予約ができますので是非ご利用ください。また、12歳以上のコロナワクチン接種の予約もできます。電話では受け付けていません。

☆世界の宝「憲法9条」を次の世代に贈りましょう。

